

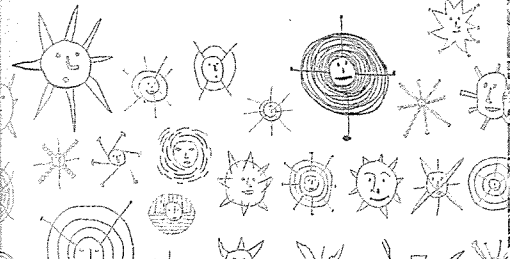
世界の国から、輝く太陽がやってくる。

067

WORLD GAMES

# 2001 AKITA

2001年8月16日 - 26日



## WORLD GAMES 2001AKITA

16~26 August 2001

COMPETITION  
INTERNATIONAL  
EXHIBITION  
CEREMONIAL  
CLOSING  
CULTURAL  
EXCHANGE  
PROGRAMMING  
EXHIBITION  
PROGRAMMING  
EXHIBITION  
PROGRAMMING

# 2001



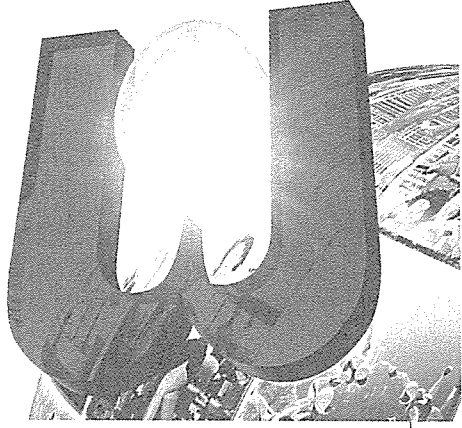
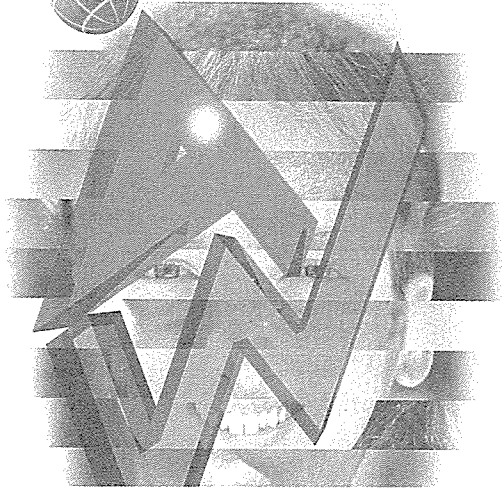
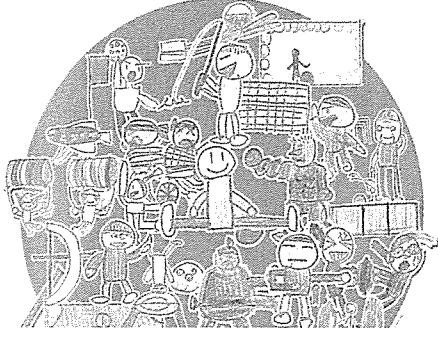
第6回 ワールドゲームズ

## The 6th WORLD GAMES AKITA JAPAN 2001 8/16 - 26

## The 6th WORLD GAMES AKITA JAPAN 2001

世界の国から、輝く太陽がやってくる。

# 2001



大会のあゆみ

The 6th WORLD GAMES 8/16 (Thu) - 26 (Sun)

I

## 総括

### 1. 運営

外国人が9割以上を占める4,000人超の選手役員が参加し、日本では国際競技会開催実績のないものも含め31競技170種目を、県内8市町村21会場で実施した。しかも、本県にとって国際競技大会の開催経験は、大会9ヶ月前のパワーリフティング世界男子選手権がほとんど唯一という、いわばぶっつけ本番で臨んだ大会だった。だが、期間中は台風11号の接近により一部競技とワールドゲームズプラザの日程を変更しただけで大きな混乱はなく、大会運営に支障を来すような事件事故の発生もなかった。基本計画から実施計画へ移行段階に予算が膨らんだとはいえ、オリンピックはもとより国民体育大会などに比べてもけた違いに少ない予算の枠の中で、効率的な運営を支えてくれたのは3,800人のボランティアだった。

ただ、宿泊手配の面で若干の混乱があった。宿泊はIF単位を基本原則とし、選手の参加予定数調査を基に宿泊施設の規模に応じた配宿計画を立てた。基礎データとして資格審査申請書と同時提出を求めているトラベルプランの提出率は1ヶ月前の段階で4割弱であったうえ、パスポート外の役員数が調査とは大きく違ったIFも少なからずあるなどしたため、実際の配宿作業は大幅な変更を余儀なくされた。

### 2. 情報発信

999日前、500日前、1年前、半年前、100日前と節目節目にPRイベントを実施するなど、知名度向上に最大の努力を払った。秋田県外での効果はなかなか見えて来なかったものの、結果的には取材用IDカードの申請は予想を上回るペースだった。大会直前の7月ごろから全国紙等でも紹介記事が散見されるようになり、8月に入ってNHKが番組宣伝などを全国放送したこともあって、情報発信量は徐々に増えていった。NHKが教育テレビで全国中継した開会式の視聴率は、秋田県内では民放も含め同時帯すべてのチャンネルの中で最高となり、全国的に

も教育テレビとしては異例の高率だった。翌日の主要全国紙も1面で開幕を伝え、地元紙はもとより全国の地方紙も大きなスペースを割いて連日伝えた。これも、配信した共同通信社の予想を上回る掲載率だった。

特徴的だったのが普通のスポーツ記事としてだけでなく、競技の面白さや選手の間模様等にスポットを当てた記事や写真が運動面以外にも数多く載ったことだった。

海外については、放送権を買った局がラハティ大会を下回ったことは残念だった。特に欧州をカバーするスポーツ専門局が条件面で折り合わなかったため、毎日のハイライト映像が放送された国・地域が大幅に減少した。また、北米大陸での放送が今回も実現しなかったことは、ワールドゲームズの大きな課題と言えるだろう。しかしながら、海外放送権販売代理店制作の週1回のスポーツ番組では、2週にわたって紹介された。この番組は世界133局で放送されている。このほか中国、ドイツのテレビ局、ブラジルのラジオ局のほか、活字媒体でも3つの海外通信社をはじめ専門雑誌等が記者を派遣した。秋田から世界への情報発信としては未曾有の量だったと言えるだろう。

### 3. 国際交流

90を超える国や地域から4,000人を超す選手役員やスポーツ関係者、観客などが集まったことにより、さまざまな国際交流が繰り広げられた。特にワールドゲームズでは選手は一般のホテルなどに宿泊するため市民と触れ合う機会が多く、競技出場前の緊張した時間以外は競技会場でも気軽に観客らと言葉を交わす光景があちこちで見られた。これを一層促進したのが秋田市中心部に設けられたワールドゲームズプラザ。ステージでは県内の伝統芸能やパフォーマンスが披露されたほか、夜は竿灯なども披露され多くの外国人の注目を浴びた。

外国人選手役員をもっとも身近で世話をしたボランティアの中には、帰国後も

彼らと連絡をとり交流を続けている人も少なくない。秋田経済同友会主催の小中学生対象の少年少女語学ボランティアはじめ、子供たちにこうした国際交流の機運が芽生えたのは本県の国際化にとって大きな意義を持つと言えるのではないか。

世界にはさまざまな考え方の人々がいることを知り、そうした人と数年にわたって交渉を重ねてこれだけのイベントを成し遂げたこと自体、秋田県にとっては貴重な国際交流の機会だった。

#### 4. 県民の自信の発揚

開催決定後もしばらくは、悲観的な見方をする県民は少なくなかった。一つは、秋田でそんな国際大会を開けるのかという見方と、秋田でやるのだから大した大会ではないという見方があった。しかも国際大会としては極めて限られた予算。

そうした悲観論は、開会式の成功によって完全に吹き飛んだ。多くの会場で客席が埋まり、オリンピックにも引けを取らないという評価もされ、国内はもとより海外でも報道されるなど注目を集めた。多くの幸運にも恵まれたとは言え、ほとんど国の補助もなしに実現できたことで、秋田もやればできるという気運は生まれた。

なかんずく、そうした高揚感に地元の子供たちに直接触れてもらえたことは貴重な経験となったであろうし、ふるさとを見直すきっかけともなり得たのではないか。それがふるさとに対する自信につながり、より住みやすいふるさとづくりへの新たな情熱を生むことを期待したい。

#### 5. 新しいかたちの提示

ワールドゲームズ自体、肥大化と商業化が批判されたオリンピックへの反省を基に生まれた。新しいマルチスポーツイベントの在り方を目指して回数を重ねたが、主に知名度不足のために目的達成までは道遠しというのが第5回大会までの状況だった。理念は掲げられているもの

の、それを具体化する運営方法はほとんど開催地に任せられているといってもいい状況だった。逆にそれが、秋田独自の運営方法がある程度の自由裁量の下で作り上げることが可能となった。

基本的に既存施設を利用するという大原則に加え、用具器具についても可能な限り競技団体の協力を仰ぎ、スタッフについても、競技に不可欠のものは競技団体の責任で配置してもらい、補助的任務は極力ボランティアに担ってもらうことを基本とした。日本人に馴染みの薄い競技を面白く見てもらうためには、選手の息づかいを感じることができるような距離で観戦してもらうことにしたことも、会場が盛り上がった要因の一つと考えられる。

新しいかたちのスポーツイベントの在り方はかなりの程度提示できたと思われるが、どの程度のインパクトを与えることができたか、今後の推移を見守っていかねばならない。

## 招致委員会の設立

秋田にワールドゲームズ開催の話が最初にあったのは、1994年晩秋から初冬にかけてのころと思われる。もともと発端は民間の人のつながりから生まれたもので、年月は関係者の記憶に頼る部分が多い。

94年10月の国際ワールドゲームズ協会(IWGA)総会で、97年の第5回大会の開催予定地である南アフリカのポートエリザベス市が社会状況の急変により開催が困難となっていることが報告され、代替開催地を12月初めまで募ることが決定された。この総会に出席していた師岡文男AOC常務理事(上智大学教授)が、2001年大会に関心を示していた首都圏の都市などのほか、直前までミネソタ州立大学機構秋田校の初代学長だった諸星裕AOC常務理事(現桜美林大学副学長)を通して秋田にも話を持ち込んだ。しかし、準備期間が短かったため具体的な動きにまで至らないまま、翌95年1月、第5回大会開催地はフィンランド・ラハティ市に決まった。同市は世界ノルディックスキー選手権など国際大会の開催経験が豊富で、2006年冬季オリンピックの開催候補地にも名乗りを上げていた。

同月、県企画調整部長名で「97年大会にも興味を持っているが、2001年大会の開催を強く希望する」旨のフローリック会長宛の文書をFAXで送った。これに対しフローリック会長からは同月末、2001年大会への立候補を勧める返事が届いた。これを受け民間では4月ごろから、2001年大会招致の可能性などを探る動きが再び活発化した。11月には招致発起人会が設立され事業費等を試算、翌月には招致委員会が発足した。

## 招致決定・開催契約

しかし、明けて翌96年1月、当時の県知事は開催に消極的な姿勢を示したため、招致委員会は2月末に県知事宛に招致立候補要望書を提出するとともに県議会スポーツ振興議員連盟役員会にも趣旨説明と支援要請を行い、総事業費は11億円でも可能と説明した。翌3月7日、同議員連盟は総会で招致推進を決定。翌日、知事も立候補を正式表明した。

招致委員会は4月から招致ビデオやポスター、パンフレット等を製作して招致活動を本格的に展開。県も6月補正予算に招致委員会への負担金等の計上作業を始めた。

4月8日にはIWGAのフローリック会長が初来県、翌月中旬にはコ・コーレン事務総長も同行して再来県した。

民間のみで構成されていた招致委員会を、行政、競技団体関係者も加えた組織とするため7月25日に第1回拡大招致委員会を開催し、以後これを招致委員会とすることとした。8月11日、フローリック会長から林招致委員会会長宛に「IWGA理事会は秋田招致を受け入れ、年次総会で推薦することを全員一致で採択した」旨の文書が届いた。これを受け県地域開発課はIWGAとの開催契約書、立候補条件書、IWGA規約等の検討を行った。

10月17日、モナコでのIWGA総会で県知事とIWGA会長とが開催契約書に署名、プレゼンテーションも行った。

## 組織委員会の設立

2001年大会開催の正式決定をうけて96年10月29日、招致委員会が開催され、開催契約書に基づいて同日付けで招致委員会は準備委員会へ移行することとし、今後の対応方針を話し合った。組織委員会を次年度早い時期に設立することを目標に、開催事業費の積算、県組織と運営主体となる組織委員会の在り方とそれぞれの必要人員、民間資金と行政負担の在り方などを検討課題とした。県の試算により事業規模は15億円に見直され、翌97年5月、県議会開会中のスポーツ振興議員連盟総会で説明した。

6月3日、秋田ワールドゲームズ2001組織委員会設立総会。会長は林善次郎・招致委員会会長が引き続き務め、理事50人の任意団体としてスタートした。しかし、活動に制約が多いなどから法人化が検討され、翌98年3月24日、民法第34条に基づく秋田県知事認可の財団法人に組織替え。基本財産は7000万円。秋田県が3500万円、民間が14者から合わせて3500万円をそれぞれ出捐した。メンバーはほとんど任意団体から引き継いだ。財団化に伴い、理事会の牽制機関として評議員会も設置。評議員は理事と同数の50人とした。

理事には大会の招致に賛同した民間企業の代表者、開催会場の市町村長、日本ワールドゲームズ協会役員等、評議員には県内経済団体、交通旅客関係企業、県体育協会関係者等が就任した。また、文部大臣、外務大臣、日本体育協会会長、日本オリンピック委員会会長等を名誉顧問に、各競技団体の日本連盟代表者を顧問に迎え、体制を整えた。

## 事務局の設置

組織委員会発足にあたり最も困難を極めたのは事務局スタッフの確保だった。サポート役の県は97年4月、県地域開発課にワールドゲームズ担当者4人を配置、翌5月6日にはワールドゲームズ推進室を発足させた(室長含め6人体制)。

一方、民間は4月中旬に組織委員会発起人会を立ち上げたが、バブル景気崩壊後の不況の中での人材提供にはどこも難色を示した。結局、5月下旬になって事務局長は林会長の秋田魁新報社から、事務局員は三浦事務総長の秋田日産自動車から出すことでまとめ、スタート後に理事企業を中心に従業員の派遣を要請していくこととした。その結果、10月には加藤建設、11月に北都銀行、12月に秋田銀行、2月に北都銀行から出向というかたちで順次スタッフが加わっていった。

98年4月で15人だった事務局員は、その後毎年増員し、2000年4月には秋田県ワールドゲームズ推進室と同室となり、2001年4月には大会運営本部体制を見越して、総務部、大会運営部、文化式典部、競技会場部、マーケティング部、広報部の6部体制とし、大会時には総数112人となった。

	組織委員会	秋田県WG推進室	業務体制
1997年6月	2人	6人	組織委員会設立時、別個の事務室
1998年4月	15人	6人	それぞれ別個の事務室で業務を処理
2000年4月	46人	35人	一つの事務室内で共同で業務を処理 管理調整、営業広報、競技業務の3部門
2001年8月		112人	大会運営本部体制

### 大会のあゆみ 【組織委員会の設立／事務局の設置】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)

## 調整委員会の開催

大会開催契約書に基づき、大会の重要決定事項を審議するための最高議決機関として調整委員会を設置し、97年12月に第1回調整委員会を開催し、以降春と秋の年2回開催した。調整委員会は下記のとおり13人とし、これらメンバーに加え、必要に応じてIWGA、AOCの役員がオブザーバーとして出席した。第1回調整委員会は、ソティロフ副会長とヒンダー財務局長を除く11人が出席した。

IWGA：ロン・フローリック会長、ボブ・ダ・ディー首席副会長、ストイル・ソティロフ副会長、コ・コーレン事務総長、ルーカス・ヒンダー財務局長

AOC：林善次郎会長、三浦廣巳事務総長、御牧平八郎常務理事、鎌田壽常務理事、七山慎一常務理事、諸星裕常務理事、玉利齋常務理事、秋田県企画調整(振興)部長

### 第1回調整委員会

97年12月14日(日) 秋田ビューホテル  
主な決議事項：秋田市、雄和町を中心に会場を県内分散型で開催する。

### 第2回調整委員会

98年4月24日(金) 秋田市文化会館  
主な決議事項：21競技の実施を決定。

### 第3回調整委員会

98年10月13日(火) メリディアン・ビーチ・プラザホテル(モナコ、モンテカルロ市)  
主な決議事項：公式26競技、6開催市町村決定。

### 第4回調整委員会

99年4月16日(金) 秋田市文化会館  
主な決議事項：公開5競技決定。

### 第5回調整委員会

99年10月11日(月) 秋田市文化会館  
主な決議事項：世界のトップアスリートの参加確保。

### 第6回調整委員会

2000年6月3日(土) 秋田市文化会館  
主な決議事項：表彰式で国旗、国歌を使用する。

### 第7回調整委員会

2000年10月24日(火) グリマルディ・フォーラム(モナコ、モンテカルロ市)  
主な決議事項：開会式における入場行進の方法。

### 第8回調整委員会

2001年2月15日(木) 秋田県高度技術研究所  
主な協議事項：帰国便乗り継ぎのための選手・役員の輸送方法。

### 第9回調整委員会

2001年8月14日(火) 秋田県庁第2庁舎  
主な協議事項：大会運営の最終確認。

## 理事会、評議員会の開催

### 1. 秋田ワールドゲームズ2001組織委員会 (任意団体)

年月日	会議	主な議題
97.6.3	設立総会	任意団体の設立、組織委員等の選任、規約、H9年度事業計画及び予算
97.7.18	組織委員会議	理事の選任
97.7.18	理事会	理事の役割分担
97.9.30	理事会	基本計画策定の方向付け、事務局体制の充実
97.12.14	組織委員会議	基本計画策定の方向付け、財団化
97.12.14	理事会	基本計画策定の方向付け、財団化
98.2.23	財団法人の設立総会	財団法人の設立、寄附行為、役員
98.2.23	理事会	会長、副会長の選任
98.3.26	組織委員会議	H9年度事業及び決算見込み

### 2. (財)秋田ワールドゲームズ2001組織委員会

98年3月24日に財団法人秋田ワールドゲームズ2001組織委員会を設立した。同組織委員会寄附行為に基づき、理事会、常務理事会、評議員会を設置し、主要議題を検討するために下記のとおり開催した。

#### (1) 理事会

回数	年月日	主な議題
1	98.3.26	H10年度事業計画及び予算、公式競技開催候補地のIWGAへの提示
2	98.4.17	国旗の取扱方針、マスコットキャラクターの作成、ロゴマークの選定
3	98.7.29	基本計画
4	98.9.18	第3回調整委員会への基本方針
5	99.3.19	H11年度事業計画及び予算、第4回調整委員会への提示素案
6	99.5.21	H10年度決算
7	99.10.1	規程の改正
8	2000.2.18	寄附行為の変更、実施計画
9	2000.3.30	役員を選任、H12年度事業計画及び予算
10	2000.5.26	H11年度事業報告及び決算
11	2001.3.21	H13年度事業計画及び予算
12	2001.5.25	大会運営体制、H12年度事業報告及び決算
13	2001.8.1	評議員の選任

#### (2) 常務理事会

回数	年月日	主な議題
1	98.5.22	基本計画骨子、シンボルマーク・ロゴタイプ最終案
2	98.7.6	基本計画、公開競技募集要項
3	98.8.20	外部スタッフの導入
4	98.11.6	実施公式競技及び実施公開競技の選定
5	99.1.18	基本計画バージョンアップ版、H11年度予算骨格
6	99.5.21	H10年度決算
7	99.7.27	マーチャンダイジングの委託業者選定
8	2000.10.4	開会式の制作業務の委託
9	2001.11.26	解散に向けての事前審議

#### (3) 評議員会

回数	年月日	主な議題
1	98.9.18	理事の選任
2	99.3.19	理事の選任、H11年度事業計画及び予算
3	99.5.21	理事の選任、H10年度決算
4	99.10.1	理事の選任
5	2000.2.18	寄附行為の変更、実施計画
6	2000.3.30	理事・監事の選任、H12年度事業計画及び予算
7	2000.5.26	理事の選任、H11年度事業報告及び決算
8	2001.3.21	理事の選任、H13年度事業計画及び予算
9	2001.5.25	H12年度事業報告及び決算
10	2001.8.1	役員を選任

## 国際会議への出席

IWGAとその傘下IF及び国際競技団体連合(GAISF)加盟IFに対し、大会の準備状況報告およびプロモーションを行うため、IWGAおよびGAISFの年次総会に出席し、プレゼンテーションを実施した。

第32回GAISF 97年10月16～19日

IWGA年次総会 10月17日

GAISF年次総会 10月19日

会場：メルカトール・ホール  
(ドイツ、デュイスブルク市)

第33回GAISF 98年10月13～17日

IWGA年次総会 10月15日

GAISF年次総会 10月17日

会場：メリディアン・ビーチ・プラザ  
ホテル(モナコ、モンテカルロ市)

第34回GAISF 99年10月13～16日

IWGA年次総会 10月14日

GAISF年次総会 10月16日

会場：リーガロイヤルホテル(大阪市)

第35回GAISF 2000年10月24～28日

IWGA年次総会 10月26日

GAISF年次総会 10月28日

会場：モンテカルロ・グランドホテル  
(モナコ、モンテカルロ市)

第36回GAISF 2001年10月24～27日

IWGA年次総会 10月24日

GAISF年次総会 10月27日

会場：シンガポール国際会議・見本市センター(シンガポール)



大会のあゆみ【国際会議への出席】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)～26(Sun)



## 基本計画、実施計画、実施競技、開催市町村の決定過程

### 1. ラハティ大会視察

97年6月の組織委員会発足時、大まかな事業費の試算はあったものの、ワールドゲームズを実際に見たことのある関係者は県内におらず、秋田大会の具体的なイメージは描けなかった。基本計画策定のためのモデルは全くない状態でのスタートだった。こうした状況の6月中旬、三浦事務総長ほか組織委員会と県推進室職員合わせて5人、それにアドバイザー契約業者3人が1週間にわたってラハティ市の準備状況を視察。同年8月7日～17日の大会には林会長ほか多くの役職員が視察し、大会後にはラハティ市組織委員会からのヒアリングも行うなどしてアウトラインの把握に努めた。

ラハティ市は世界ノルディックスキー選手権などの競技大会やG A I S F総会などの開催経験があり、2006年冬季オリンピックの正式立候補に向けて準備を進めているなど国際スポーツ都市を標榜していた。しかし、ワールドゲームズは初めての夏の大会で、しかもIWGAからの強い要請を受けた代替開催地であり、準備期間も2年半しかなかったことなどから準備不足は否めず、予想していた「国際大会」とは様相がかなり違っていた。約100キロメートル離れた首都ヘルシンキはもとより、人口10万足らずのラハティ市内ですら関心はそれほど高くなく、観客席に関係者しかいない競技会場も少なからずあった。本県からは県議会議員はじめ200人を超す視察団が訪れたが、ワールドゲームズそのものに否定的な印象を持った人も多かった。

### 2. 実施競技、開催市町村の決定過程

組織委員会設立時の基本方針として

- (1) 公式競技については県内で開催可能な限り全競技を実施する。
- (2) 公開競技については日本国内および秋田県内で人気の高い競技、実施することが極めて有効と思われる競技の中から5競技程度を実施する。

この2点が確認されていた。ワールドゲームズの基本理念として、開催地は施

設のない競技について実施を断ることが出来る。加えて、費用がかかりすぎないことを条件に実施競技を絞り込むことにした。

一方、開催市町村については

- (1) 全県を対象とした希望調査を行う。
- (2) 秋田市および雄和町についてはそれぞれ八橋運動公園および県立中央公園をメイン会場に設定する。

この2点が組織委員会設立時の基本方針だった。97年10月、県内全市町村に開催意向調査文書を発送。11月の締め切りまでに17市町村から競技名も盛り込んだ開催希望が寄せられた。12月、第1回調整委員会のため来県していたIWGA役員がこの17市町村に足を運び、施設も視察した。さらに98年1月には、開催希望を表明した全市町村と公式競技の県内団体への説明会を開催。諸条件を提示の上、個別に意向確認を重ねた。

第2回調整委員会には会場候補地として12市町村、公式競技候補としてIWGA加盟31競技を課題の有無によって2つに分類して提示した。IWGAからは全選手が一堂に会して交流することも総合大会の重要な要素であり、そのためにも1時間程度で移動可能な範囲に絞りたいとして県北地域の開催に強い難色が示された。第3回調整委員会でペロタ・ヴァスカ、ラケットボール、サーフィンの3競技を実施競技から除外、ネットボール、パラシューティング、ラグビー、スカッシュについては引き続き検討課題としたほかは基本的に実施の方向とした。パラシューティングの選手輸送に防衛庁の全面的協力が得られるめどがついたことから、第4回調整委員会でこれら4競技についても実施の方向を確認した。これを踏まえて99年10月、大阪でのIWGA総会出席のため来日した秋田大会参加予定国際競技団体(IF)の全会長、事務総長を秋田に招待し、それぞれの競技会場を視察するとともに実施に向けての具体的協議を行った。しかしその後、ネットボール、

スカッシュについてはI F側から参加辞退の申し入れがあった。

公開競技については、オリンピック、ワールドゲームズいずれにも入っていない競技団体の日本連盟等に参加の意向を確認するなどしたところ、10を超える団体から実施希望が寄せられた。その中から、I W G A正式加盟競技ながら演武のみという特性の合気道はじめ5つの競技の実施が決まった。

### 3. 競技日程の決定過程

競技日程については実施競技がある程度固まった第4回調整委員会以降、競技団体等を通じてそれぞれの競技人口、日本選手の活躍期待度、日本における人気等を勘案し、本格的に原案づくりに取りかかった。基本的には長野オリンピック等の視察結果を基に、日本人選手がメダル獲得の可能性の高い競技を最初に実施し、大会の早い時期に盛り上げを図ることとした。また、平日に実施する競技については、観客の利便性等も考慮して開始時刻を夕方に設定するなど配慮した。その結果、最初の週末には13~15競技、最後の週末には11競技が行われ、平日も6~9競技実施されることとなった。

原案は99年秋、秋田で開催した第5回調整委員会、I F会長、事務総長会議で概ね了承を得た。その後、各I Fとの調整の結果、若干の微調整を経て最終競技日程が確定したが、一部競技で前売り券発売後に日程変更となり混乱を招いた。

### 4. 基本計画と実施計画の策定について

大会事業費については96年2月、民間主体の招致委員会が県議会スポーツ振興議員連盟に開催を働きかけた際には11億円で可能と説明していた。しかし、開催決定後の試算ではかなり難しいとの判断から、組織委員会設立時に15億円にかさ上げした。

初年度に予定されていた基本計画策定事業は、並行で進めていた実施競技と会場市町村の選定が固まらないまま、大会のアウトラインのみをまとめて98年7月

に完成した。その後、公式27、公開5の実施競技を6つの市町村で開催することを盛り込んだ改訂版の基本計画を翌99年1月に決定した。

しかし、大会の知名度は一向に上がらないのにP R活動にほとんど予算を割けず、従ってT V放映権の販売も苦戦を強いられ、開催契約上の義務事項でもある国際映像の制作費も確保困難、スポンサー企業を募ることも無理に近い、さらには15億円の事業費では競技実施だけでもかなり厳しいことが危惧された。このままの状態では、大会の目的である秋田からの情報発信や、県民の自信の発揚、とりわけ次代を担う子供たちに夢を与えるなどは達成困難であると判断せざるを得なかった。

このため再度、上記目的を達成するための最低限の事業費はどのぐらい必要かを精査した結果、およそ25億5000万円が必要であるとの結論に達し、99年秋に開催契約の当事者である県当局に伝えた。これを受けて県は、計画の中身を再吟味の上で県議会に打診したが同意を得られず、精査を重ねた結果、約23億円とすることで2000年2月県議会です承を得た。

以上の経緯を経て、最終的に県内8市町村で開催することとした実施計画案が同月の理事会において承認された。

### 5. 基本計画の概要 (1999年1月策定)

#### 第1 基本コンセプト

- ・ 競技会と並んで文化イベントも重視
- ・ 世界との交流と情報発信
- ・ 地方都市秋田からダイレクトに世界に等身大の日本を発信するローカル・トゥ・ローカルを目指す

#### 第2 大会概要

- ・ 名称 [正式名称]  
第6回ワールドゲームズ  
[通称]  
秋田ワールドゲームズ2001
- ・ 開催地 秋田県
- ・ 運営主体 財団法人秋田ワールドゲームズ2001組織委員会 (略称 A O C)
- ・ 参加国 約50カ国 (地域を含む)

- ・参加選手数 約3000人（役員を含む）

### 第3 大会運営

- ・できる限り簡潔にし、関係団体、競技関係者、ボランティアの参加を仰ぐ
- ・世界への情報発信の条件整備に力を入れる
- ・入場は原則として有料とする

### 第4 式典

- ・開会式会場 秋田市
- ・閉会式会場 雄和町

### 第5 ボランティア

- ・組織化を図り大会後も地域におけるボランティア活動の普及に寄与するよう努める

### 第6 財政

- ・総事業費は約15億円
- ・関係自治体には2分の1の負担を求め、残額については民間企業や各種団体、個人からの広告料や協賛金、寄付金などのかたちで確保する
- ・関係自治体からの負担は7億5000万円を上限とする

## 6. 実施計画の概要（2000年2月策定）

### 第1 大会の概要

- ・会場市町村  
秋田市、雄和町、天王町、大潟村、横手市、六郷町、本荘市、岩城町
- ・参加競技団体  
公式競技 = 22国際連盟  
公開競技 = 5国際連盟
- ・選手役員数  
公式競技 = 約2500人  
公開競技 = 約750人（いずれも役員含む）
- ・参加国・地域 約80
- ・競技数 公式競技26 公開競技5
- ・種目数 公式競技158種目  
公開競技11種目
- ・会場 公式競技19会場  
公開競技5会場
- ・観客動員計画 26万人

### 第2 財政計画

- ・総事業費2,299,477千円
- 収入の部
- ・自治体からの負担金収入  
1,549,477千円
  - ・民間  
750,000千円

## 大会テーマ

「感動の新しいかたち」を大会テーマと定め、新しい感動を創る、3つのかたちをテーマとした。

### ●スポーツ大会の新しいかたち

スピード、持久力、体力、技術を極限まで磨いたトップクラスのアスリートたちが世界一を決める競技を通して得られる、スポーツ本来の感動と興奮を大切にします。

スポーツが持つ文化的な側面を再認識し、従来のスポーツイベントにとらわれない全く自由な発想で開・閉会式や表彰式、文化イベントや交流イベントを演出します。

### ●交流とふれあいのかたち

国や地域、民族や言語を超えて集う選手、役員、観客と地元住民との交流を積極的に図ると共に、活字や電波を通して世界へ情報を発信します。

第6回ワールドゲームズを契機に地球はよりコンパクトになり世界の人々が平和と友好の輪を広げます。

秋田の風土が長年培ってきた「まごころ」を合言葉に、ホスピタリティあふれる大会運営を心がけ、大会に集まった人々がそれぞれの故郷に帰ってから、秋田、日本の良さを伝えるような大会運営をします。

### ●挑戦と創造のかたち

第6回ワールドゲームズは、新しい競技施設を造りません。

巨大な資金をかけなくても内容の濃いスポーツの祭典は可能であるはずですしそのモデルとなる大会を目指します。それが地域環境とスポーツの新しい関係を築くことにもなります。

また、行き過ぎた華美な運営を極力抑え、秋田という地方都市ならではの等身大の運営を心がけます。

そうすることが21世紀の幕開けを飾るスポーツの祭典にふさわしく、世界中の地方都市と住民に自信と希望を与えると考えるからです。

## 公式ロゴマーク等

ワールドゲームズ全体のイメージ創りのため、専門デザイナーにより公式ロゴマーク等を制作した。

### 1. 公式ロゴマーク

本大会のシンボルマークとして、競技会場、大会関連施設等に表示したほか、広く統一マークとして使用するため、1998年5月永井一正さんのデザインにより制作した。

世界性を表す地球、赤のAは燃える秋田、緑のWはワールドゲームズの躍動感と秋田の自然を表している。



### 2. マスコットキャラクター

大会をより親しみやすいものにするため、秋田の伝統行事「なまはげ」をモチーフとして、1999年12月秋田市在住のデザイナー石川貴教さんのデザインにより制作した。愛称は公募の結果、翌2000年1月大曲市立四ツ屋小学校3年(当時)藤田諒君の作品「ナミー、ハギー」に決定した。

### 3. コミュニケーションキャラクター

「世界の国から、輝く太陽がやってくる。」をコンセプトに、大会に集う人々のコミュニケーションツールとして、1998年K2(長友啓典さん、黒田征太郎さん)のデザインにより太陽マークを制作した。

## 4. ポスター

ワールドゲームズのイメージを広くPRするほか、本大会時の演出ツールとしてポスターを制作した。

## 1) 第1弾 ポスター

ワールドゲームズの認知度が全く無い時期だったので、ワールドゲームズが秋田で開かれること、世界中から人々が集まる大会があることを告知する目的で制作した。

①制作時期/98年7月

制作枚数/4,500枚

## 2) 第2弾 ポスター

ワールドゲームズが、トップアスリートが競い合う国際総合スポーツ大会であることを告知する目的で制作した。

①制作時期/99年9月

制作枚数/3,000枚

## 3) 第3弾 ポスター

県民参加型ポスターと位置づけ、デザインを広く県民から公募することにより、ワールドゲームズへの関心度を高め、大会への参加意識の高揚を図る目的で制作した。デザインは公募の結果、秋田市立四ツ小屋小学校5年(当時)加藤健太郎君の作品に決定した。

①制作時期 2000年10月

制作枚数 3,000枚

## 4) 第4弾 ポスター

大会が目前に迫っていることをアピールし、大会期間中も装飾として各箇所に掲示する目的で制作した。

なお、選手・観客等が記念として持ち帰るのにも対応できる制作枚数にした。

①制作時期 2001年7月

制作枚数 10,000枚

## 音楽制作

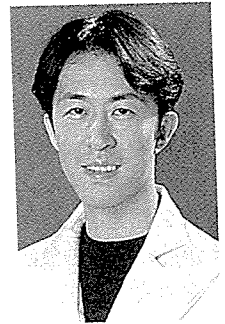
ワールドゲームズイメージソングとテーマソングを制作し、大会のイメージアップを図った。CMのほか、本大会で使用した。

## 1. イメージソング

99年8月21日に発表。秋田市出身のエレクトーン奏者、加曾利康之さんが作曲。「秋田大会」のドキドキ感をはじけるようなリズムにつなげ、これから訪れる出会いと興奮をストーリーにしたインストメンタル曲。主にCMやPRイベントに使用した。

## 2. テーマソング「風になれ～Like A Wind～」

2001年2月16日に発表。イメージソングをベースにアーティスト、森川美穂さんが力強さや爽快感をモチーフに作詞し、自らポップでパワフルな声で歌い上げた。日本語バージョンと英語バージョンがある。



加曾利康之



森川美穂

## 年表

年月	事項	年月	事項
1993	第4回ワールドゲームズ(ハーク)開催	7.19	スポールブル全国大会(雄和町スカイドーム)
1994.10月	第5回ワールドゲームズを南アフリカのポートエリザベスが返上	7.25~26	全日本コーボール選手権(六郷町アスバル)
秋~冬	招致活動を開始したが、準備不足のため実現せず	7.29	AOC第3回理事会(基本計画の承認、PR基本構想の承認、公開競技募集要項承認、常務理事会への権限委譲について)
1995.1月	JWGAが秋田立候補に関して全面協力を決議	7.31	第1弾ポスター発表
2月	第5回ワールドゲームズ、ラハティ開催決定	8.4.6	日本ジャンボリー(森吉町)でのPR
	2001年第6回開催に目標を変更	8.4~26	ワールドゲームズ告知キャンペーン(太陽のイラスト)(JR秋田駅西口)
11月	招致発起人会設立	8.22	フィンスイミング体験講習会(秋田市)
12月	招致委員会発足	8.20	AOC第3回常務理事会(外部スタッフの導入)
1996.2.28	招致委員会が「WG2001秋田大会開催」要望書を知事に提出	8.22~23	ワールドゲームズ・ウィーク'98(秋田市児童会館)
	招致委員会からスポーツ振興議員連盟役員会に主旨説明及び支援要請	8.29	IWGA会長来県(第3回調整委員会事前協議)
3.7	スポーツ振興議員連盟総会にて招致推進を決定	9.18	AOC第1回評議員会(理事の追加選任について)
3.8	知事、2001年大会に秋田開催立候補をIWGAに正式表明		第4回理事会(第3回調整委員会に向けた基本方針について)
3.15	2001年大会立候補締切(秋田県のみ)	10.3~4	ワールドゲームズ・フェア'98(八橋陸上競技場、県立体育館)
3.25	招致委員会からの秋田開催に関する請願書を2月県議会にて全会一致で採択	10.13	第3回調整委員会(モナコ)(ドーピング、IFパスポート外の参加希望選手役員の追加、設備、懸案の競技)
4.8	フローリックIWGA会長来県(知事表敬、記者会見、施設見学等)	10.14~17	IWGA並びにGAISF総会(モナコ)
5.12	IWGA会長、コ・コーレン事務総長来県(知事表敬、記者会見、施設見学等)	11.20	公式競技開催市町村連絡会議
5.17	拡大招致委員会(役員会)開催	11.21	999日前イベント(秋田駅)モニュメント設置
8.9	IWGA理事会(ラハティ)開催		記念シンポジウム(秋田市)開催
	総会に推薦する候補地として秋田県を全会一致で決定	12.22	カウンタダウンカレンダー作成配布
10.16	GAISF並びにIWGA年次総会(モナコ)		第2回庁内連絡会議(11年度事業の各課連携について)
10.17	開催契約書署名 同日IWGA年次総会で同契約書批准により正式決定	1999.1月	基本計画策定
10.29	招致委員会を準備委員会に移行	2月	日本語版パンフレット第一版作成
1997.3.22	IWGA会長来県(秋田新幹線開業に合わせ、PRを兼ねてうち合わせを実施)	2.16	国際オリンピック委員会後援名義許可
5.6	県ワールドゲームズ推進室設置	2.22	語学ボランティア養成事業「秋田市内小学校英会話レッスン」開始
6.3	秋田ワールドゲームズ2001組織委員会設立	2.28	900日前イベント(秋田空港)モニュメント設置
	協賛バッジ販売開始	3.2	在京放送局への説明会(ホスト放送局選定のため)
6.5	AOC設立に関する記者会見(東京都)	3.19	第5回理事会、第2回評議員会(10年度決算見込み、11年度事業計画、予算案)
6.13-21	第5回ワールドゲームズ(ラハティ)事前視察	4.16	第4回調整委員会(秋田市)(開会式、競技プログラム)
7.18	第2回組織委員会開催(理事の選任など)	4.17	(財)日本体育協会後援名義許可
7.30	市町村説明会開催(県正庁 50市町村参加)	4.23	(財)日本レクリエーション協会後援名義許可
8.7	第5回ワールドゲームズ(ラハティ)開催	4.30	(財)笹川スポーツ財団後援名義許可
~17	閉会式で大会旗引継	5.10	(財)日本オリンピック委員会後援名義許可
9.30	第2回組織委員会理事会	5.21	AOC第6回理事会
10.4~5	ワールドゲームズフェア'97開催(雄和町)	6月	英語版パンフレット第一版作成
10.16~19	GAISF並びにIWGA年次総会(デュイスブルグ)	6月	「Number誌」に掲載(以降2000年3月まで7回掲載)
10月中	情報誌No.1発行(以降2001.5のNo.11まで発行)	7月	ボランティア一次募集開始
11.18	スポーツアクト秋田県演技会(県立体育館)	7.8	秋田ワールドゲームズ振興会設立総会
12.14	第1回調整委員会(調整委員会の構成、IWGA規約改正)	7.25	第3回全日本クラス別ボディビル選手権大会(秋田市文化会館)
	第3回組織委員会理事会(GAISF報告、基本コンセプト、公式競技会場候補地)	7.29~8.1	第40回日本男子ローラーホッケー選手権大会・第12回全日本女子ローラーホッケー選手権大会(県立スケート場)
1998.1月	プロモーションVTR作成(以降、98.9.99.9、2000.9とリニューアルして配布)	8.21~22	ワールドゲームズフェア'99、ワールドゲームズウィーク'99(秋田市)開催
1.4	県内競技団体説明会 開催候補希望17市町村	8.21	公式イメージソング発表
1.23~25	東京ドームふるさとフェア'98(東京都)でPR	8.22	99全日本シニア選手権&10ダンス選手権大会(秋田市立体育館)
3.24	財団法人秋田ワールドゲームズ2001組織委員会設立	8.28	全国花火大会でのPR(大曲市)
3.26	第4回組織委員会理事会、財団法人秋田ワールドゲームズ2001組織委員会(以下AOCと略記)第1回理事会	8.26~29	第28回ジャパンオープンウォータースキーナメント(大湯村)
4月	公式ホームページ開設	9.10	第2弾ポスター発表
4.17	AOC第2回理事会(理事の担当業務、国歌・国旗の取り扱い、シンボルマークの決定)	10.1	AOC第7回理事会
4.22	IWGA会長記者会見(東京都)	10.11	第5回調整委員会(秋田市)(開会式、マーケティング、TD、資格審査、国歌、国歌)
4.24	第2回調整委員会(国歌・国旗の取り扱い、公式競技、サテライト型開催方式について)	10.12	IF代表者による競技会場視察(23団体参加)
5.22	AOC第1回常務理事会(基本計画について)	10.14-16	GAISF及びIWGA年次総会(大阪市)
5.23~24	全日本ローラースケートスピード選手権大会(秋田市)開催		10/15 IWGA年次総会でAOCプレゼンテーション
5.28	秋田大会シンボルマーク発表		10/16 GAISF年次総会でAOCプレゼンテーション
5.29~31	日本文化デザイン会議でブース設置PR(秋田市)	11.15	マスコットキャラクター決定、愛称募集開始
6.1	秋田空港・秋田駅新幹線ホーム告知看板設置	12.24	NHKから衛星放送確約を得る
6.5	全県高校総体開会式パラシューティング・デモ(八橋陸上競技場)	12.28	ボランティア一次募集締切
6.26~28	全日本パワーリフティング選手権開催(大湯村)	2000.1.17	マスコットキャラクター愛称「ナミエ&ハギー」決定、公式ライセンス募集
7.6	AOC第2回常務理事会(基本計画、公開競技募集要項について)	2月	実施計画策定
7.9~10	IF技術代表者施設調査及び会議	2.18	AOC第8回理事会
7.17	全県中学総体開会式フライングディスク・デモ(大館樹海ドーム)	2.28	IWGA会長との事前打ち合わせ(東京都)(全般)
		3.30	AOC第9回理事会
		4.1	ボランティア2次募集開始
		4月	県内テレビ、ラジオスポット開始
		4月	日本語版パンフレット第2版作成

年月	事項
4月	ボランティア語学研修開始(以降2001年7月まで8カ国語の語学研修を県内各地で実施)
4.28	オフィシャルショップ「ナミエ&ハギー」オープン(秋田市)
5.8	事前ボランティア活動開始
5.8	防衛庁後援名義許可
5.15	文部省(現文部科学省)後援名義許可
5.24	外務省後援名義許可
5.26	AOC第10回理事会
5月	第5回全国アウトドアスポーツフェア(以降、2001年3月まで開催市町村を中心に開催)
6.3	第6回調整委員会(秋田市)(テレビ契約、チケット販売、競技種目、招待者)
6.8	ANAをサプライヤーとして発表
7月	「お知らせ隊」を組織し、活動を開始
7.7~9	ジャパンオープンウォータースキートーナメント(大湯村)
7.14~17	北海道PRキャラバンの実施
7.22~23	ワールドゲームズフェア2000(雄和町)
	全日本ローファイター選手権大会(秋田市)
	全日本ディスクゴルフ選手権大会(雄和町)
7.26	PRバス「ナミエ&ハギー」運行開始
8.1	ぴあをサプライヤーとして契約
8.1	チケット管理センター開設(2001.8.31まで)
8.4-7	竿灯祭りでのPR(秋田市)
8.15	開会式総合プロデューサー今野勉氏に決定
8.16	開会式チケット発売開始
	1年前新聞広告掲載
8.19	第1回WGボランティア大会(秋田市)
8.26	全国花火大会でのPR(大曲市)
9月	業種別英会話研修開始(開催まで延べ290講座)
9.30~10.1	第13回全国スポーツレクリエーション祭でのPR(石川県)
10月	日本語版パンフレット第3版作成、英語版パンフレット第2版作成
	大会ガイドブック日本語版作成
10.9	オリンピックフェスティバル2000でのPR(東京都)
10.28~29	第54回全国レクリエーション大会でのPR(群馬県)
10.18	表彰メダルデザインの発表
10.24	第7回調整委員会(モンテカルロ)(開会式における入場行進方法)
10.24~28	GAISF及びIWGA年次総会(モンテカルロ)
10.27	IWGAとIOC相互理解覚書締結
11.9~15	秋田観光フェスタIN渋谷でのPR(東京都)
11.25~26	スポーツフォーオール国際フェア2000
	神宮外苑大会でのPR(東京都)
11.14~19	第30回世界男子パワーリフティング選手権(秋田市)
11月末	メディアガイド初版作成
12.7	大会概要の発表とメディアガイドの発行についての記者会見(東京都)
2001.1.9	オフィシャルスポンサー19社発表(東京、秋田同時に記者会見)
1.10	TWIと海外での放送権販売業務委託契約締結
1.11	秋田ワールドゲームズ2001首都圏支援実行委員会設立
1.28	200日前イベント(田沢湖スキー場)
	第2回WGボランティア大会(秋田市)
1.30	第1回報道委員会開催(以降4.26、6.12、7.13と第4回まで開催)
1.31	ボランティア2次募集締切
2.1	競技パスポート販売開始(即日完売)
2.14~15	生涯スポーツコンベンション2001でのPR(青森県)
2月中旬	メディアガイド第2版作成
2.15	NHKと放送に関する契約書を締結
2.15	第8回調整委員会(秋田市)
	(帰国便乗り継ぎのための選手・役員の輸送方法)
	競技チケット発売開始
2.16	「6 Month Countdown Event」(横手市)
	公式テーマソング発表
	半年前新聞広告掲載
2.16~17	メディアミーティング開催(横手市~秋田市)
2.17	ウィンターイベント(秋田市)開催
3月	大会ガイドブック英語版作成
3.19	日本語版ホームページリニューアル
3.21	AOC第11回理事会
3.24	県立総合プールオープニングセレモニー(秋田市)
	フィンスイミング、ライフセービングデモンストレーション
4.1	日本財団助成決定
4.26	NTTドコモ東北秋田支店をサプライヤーとして契約

年月	事項
5.8~11	100日前イベント(東京都)東京パレード、出場予定選手記者会見、都内大型画面PR開始、東北PRキャラバン(山形県、宮城県、岩手県)
5.8	オフィシャルスポンサー2社追加発表(東京、秋田同時に記者会見)
5.8	100日前新聞広告掲載
5.13	県民パレード、WGを支援する県民の集い(秋田市)
5.23	ワールドゲームズジェット就航
5.25	AOC第12回理事会
6.1	インターネットによる海外予約販売開始(7.31まで)
6.11	秋田ワールドゲームズ2001公開講演会開催(宮城県)
6.12	シダンをサプライヤーとして契約
6.14	IWGA会長との事前打ち合わせ(秋田市)(全般)
6.20	開会式の全国テレビ中継日程発表
6.21	選手登録締切日
6.22	JR東日本秋田支店をサプライヤーとして発表
6.27	50日前イベント(秋田市)
	英語版ホームページリニューアル
	50日前新聞広告掲載
7月	日本語版パンフレット第4版作成
7.9	第4弾ポスター発表
7.10	青森PRキャラバン(青森県)
7月	中旬メディアガイド第3版作成
7.16	産経新聞東京版への新聞広告掲載(以降、朝日、毎日、読売、日経、東京、日経金融、日経産業に適宜掲載)
7.16	表彰メダル・ケース完成
7.17~8.1	JR山手線でのADトレイン運行
7.18~22	福島PRキャラバン及びうつくしま未来博でのPR(福島県)
7.27~8.26	JR山手線での文字放送PR
8.1	AOC第13回理事会
8.1	秋田駅インフォメーションブース開設
8.1-15	東北地域のテレビCM実施
8.3-6	竿灯祭りでのPR(秋田市)
8.6	公式プログラム完成(8月8日より配布)
8.8	秋田空港インフォメーションブース開設
8.10	メインプレスセンターオープン(8.27まで)
8.10	メインアクレディテーションセンターオープン(8.26まで)
8.14	第9回調整委員会(秋田市)(大会運営の最終確認)
8.14	SOSセンター開設(8.27まで)
8.15	開催前日新聞広告掲載
	ワールドゲームズ前夜祭
8.16	開会式、ウェルカムパーティ
8.17~26	第6回ワールドゲームズ
8.19	ワールドゲームズパーティ
8.21~22	台風のためワールドゲームズプラザ閉鎖
8.25~26	ワールドゲームズフェア2001(秋田市)
8.26	閉会式、フェアウェルパーティ
9.2	NHK総合で総集編全国放送
9.2	パレス募金のための資料販売会
10.24~27	GAISF及びIWGA年次総会(シンガポール)